

## 地域の概要

### 1. 基礎データ

盛岡都市圏(盛岡市、滝沢市、矢巾町)

人口：361,560人

(R5.12.31現在・住民基本台帳)

面積：1,136.25 平方キロメートル

過疎地域等指定：なし、

山村(旧玉山村藪川村)

高齢化率：28.8%

交通会議開催数：2回

(R5.4 ~ R5.12)

### 2. 公共交通の概況

#### 【乗合バス】

##### ①路線バス

運行：岩手県交通(株)、岩手県北自動車(株)、ジェイアールバス東北(株)

路線：120路線

##### ②コミュニティバス

運行：滝沢市(3路線)、矢巾町(2路線)

路線：5路線

#### 【鉄道】

運行：東日本旅客鉄道(株)、IGRいわて銀河鉄道(株)

路線：在来線5路線、JR東北新幹線

#### 【乗合タクシー】

運行：タクシー事業者1社

エリア：矢巾町内

#### 【自家用有償旅客運送】

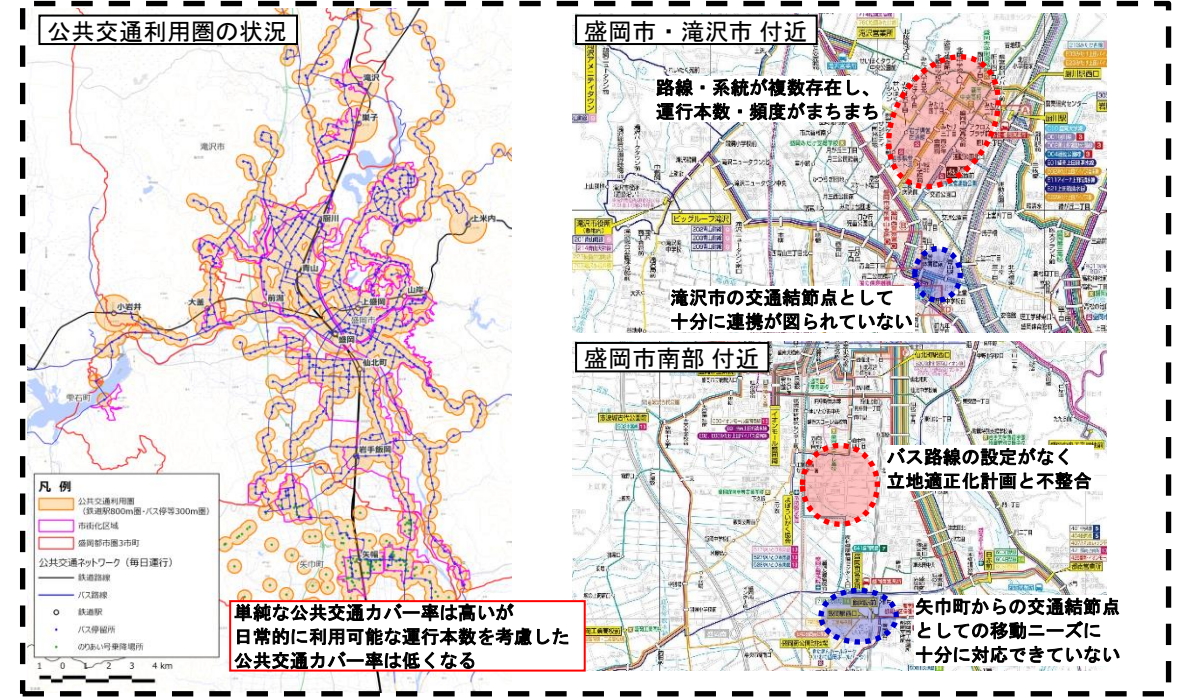
運行：なし

形態：-

エリア：-

### 3. 公共交通の問題点

- (1)人口減少、少子高齢化の進展による影響もあり、公共交通の利用者数が低迷している。
- (2)既存路線だけでは運行地域が限られるとともに、運行頻度も少なく、公共交通の充実した地域とは言えない現状であり、運行経路やダイヤの見直しだけでは、公共交通の充実に関して根本的な改善を図ることが難しい状況である。
- (3)盛岡市、滝沢市、矢巾町の3市町では、盛岡広域都市計画区域を形成し、広域でのまちづくりを行っているが、公共交通に関しては各市町で個別に計画されていることから、行政区域内のみの取組であり行政区域を跨ぐ移動実態との乖離がある。
- (4)行政区域を超えたニーズ等を把握したうえで課題を整理し、まちづくりとも連携した持続可能な公共交通の再構築が必要である。
- (5)令和5年度に策定予定の「岩手県地域公共交通計画」と整合を図るため、県計画に位置づける幹線系統などを含めた交通網との調整・整理を行う必要がある。



# 盛岡都市圏地域公共交通会議

## 調査内容

### 【事業評価時点で完了している内容】

1. 地域公共交通の現状整理
  - (1) 地域概況の整理
  - (2) 上位・関連計画・まちづくりの整理
  - (3) 利用状況・収支状況の整理
  - (4) 公共交通利用圏の整理
2. 利用者ニーズの把握
  - (1) 住民アンケート調査
  - (2) 学生アンケート調査
  - (3) 観光客WEBアンケート調査
6. 法定協議会開催(1回実施)

### 【今後予定している内容】

2. 利用者ニーズの把握
  - (4) 盛岡都市圏の移動傾向の分析
  - (5) 住民代表者ヒアリング調査
3. 移動特性の分析による課題抽出
4. 基本方針及び目標(素案)の検討
5. 具体施策の方向性検討
6. 法定協議会開催  
(令和5年度実施分残り2回)

## 調査結果概要

### 1. (1) 地域概況の整理

- 盛岡都市圏は、教育・医療・商業等の地域拠点が各所に形成されており行政区域を相互に跨ぐ移動が多い。

### 1. (2) 上位・関連計画・まちづくりの整理

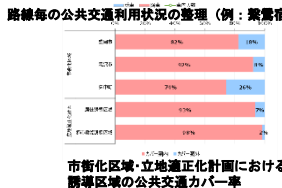
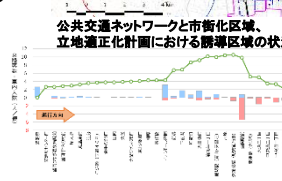
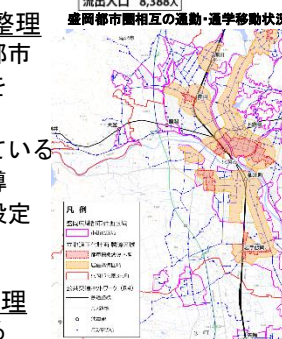
- 盛岡市、滝沢市、矢巾町は、広域都市計画区域を設定しており、盛岡市を中心として、コンパクト・プラス・ネットワークの都市計画が成されている
- 盛岡市立地適正化計画における誘導区域を市街化区域に対し、厳しく設定している。

### 1. (3) 利用状況・収支状況の整理

- 学校施設、商業施設等の集客のある施設を中心に、利用状況が顕著に変化する。
- 平均乗車密度は、国庫路線平均で3.8人、県単補助路線平均で2.3人と厳しい状況にある。

### 1. (4) 公共交通利用圏の整理

- 市街化区域内の9割を公共交通がカバーしているものの、運行本数が極めて少ない路線が多く、日常利用が難しい箇所がある。

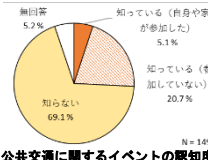


### 2. (1) 住民アンケート調査結果(2,500票配布、有効1,494票)

- 盛岡都市圏における移動実態や公共交通の課題、持続可能な公共交通の実現に向けた施策展開の検討のために実施した。

#### 【公共交通の改善点】

- 通勤通学時のバス利用については、
- 定時性に対して特に改善を求めている。
- 世代・公共交通利用の有無に関わらず、
- 運行本数や間隔の改善を求める声が多い。



#### 【利用意向に関する実態】

- 公共交通のイベントの認知度が極めて低く、公共交通に関心のある家庭も約4割に留まる。
- サービス改善後の利用意向や公共交通への財政負担については、半数以上の方が利用や負担に前向きな傾向である。

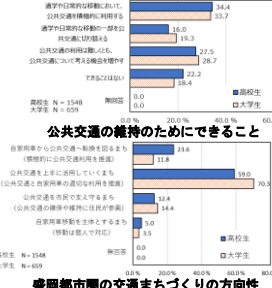
### 2. (2) 学生アンケート調査結果

(有効票 高校生:1,548票、大学生:659票)

- 主要な公共交通利用者の移動実態や公共交通の課題、交通まちづくりへの意向を把握するために、盛岡都市圏の公立高校10校(対象2年生)と主要大学4校を対象に実施した。

#### 【交通まちづくりへの意向】

- 公共交通のためには、公共交通の積極利用や公共交通への関心が各3割である一方、
- 公共交通の維持のためにできること
- できることはないとの回答も2割に及んでいる。
- 将来の盛岡都市圏について、公共交通と自家用車を適切に活用できるまちを望んでいる。



<公共交通に関する課題等(案)>  
**【公共交通ネットワークの課題】** 効率的な都市構造の実現や交通不便地域の改善のため、路線の位置付けの明確化や交通モードの連携が必要である。  
**【公共交通サービスの課題】** 誰もが快適かつ安定して移動できるように、限られた輸送資源を適切に活用した交通サービスへの転換が必要である。  
**【施策実施の課題】** 盛岡都市圏の各市町の得意分野やノウハウを活かすとともに、多様な関係者と連携が図られた公共交通の実現が必要である。  
**【住民意識・参画の課題】** 持続可能な公共交通の実現に向け、公共交通の認知・理解度を向上し、公共交通への関心や積極的な参画を促す必要がある。

## 今後の取組みについて

### 【スケジュール(予定)】

- 2月中旬まで  
利用者ニーズの把握、移動特性の分析による課題抽出、基本方針及び目標(素案)の検討
- 2月上旬  
第3回公共交通会議開催
- 3月下旬  
第4回公共交通会議開催、具体施策の方向性検討

### 【地域の交通の目指す姿】

これまで各市町が個別で進めていたネットワークの改善や事業を、移動需要に応じて盛岡都市圏として実施することにより、多様なニーズへの対応とまちづくりの支援を行う。  
 その上で必要となる地域公共交通確保維持改善事業の活用を検討する。